2026 年 10 月
白百合女子大学 FD･SD 推進委員会

2026 年度 学生懇話会報告書

はじめに

なぜ懇話会をやるのか。学生の声を聞きたいなら「授業改善のための学生アンケート」があるではないか。そのように考える人がいてもおかしくありません。しかし、懇話会の現場に立ち会ってみると、やはりアンケートとは別立てで実施した方がよいとわかります。

さまざまな学科・学年の学生たちが、肩肘張らずにお喋りする中でしか出てこない視点やアイデアがあります。日頃から学生を間近に見ているはずの教職員が、ちょっと意表を突かれるようなこともしばしば。大変参考になりますし、何よりおもしろいです。お昼休みを利用した、ほんの短い時間で行われる懇話会ですが、非常に有意義な時間であることは、この報告書を読んでもらえればおわかりいただけるかと思います。

なお、今回から、テーマに関係があると思われる部署のみなさまからコメントをお寄せいただくことにしました。「喋って終わり」ではなく、次のアクションに繋げていくための試みです。教職員による分析・考察が加わることで、懇話会の持つポテンシャルが、これまで以上に可視化されたと感じています。ぜひご一読ください。

FD･SD 推進委員会では、学生生活のあり方について知り、よりよいものにデザインしていくためのイベントとして、懇話会を継続的に実施して参ります。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

FD･SD 推進委員長
トミヤマ　ユキコ

開催概要

〔日　時〕2026 年 7 月 7 日（火）12：10～12：50
〔会　場〕R.4003（美術演習室）
〔参加者〕学部生 18 名、FD･SD 推進委員 8 名、教学担当副学長、職員 1 名
〔テーマ〕A：アドヴァイザー制度　B：授業でパソコンやスマホを使うこと
　　C：大学のイベント　　D：キャンパス内の魅力

テーマ別討議の概要
（学生の意見とオブザーバーコメント）

グループ A「アドヴァイザー制度について」

学生4 名（発１年１名、児２年２名、児３年１名)、オブザーバー：海老根（フ文）

アドヴァイザー制度については、定期面談を通じて履修や学生生活について相談できる機会を評価する意見が多く挙げられた。一方で、相談のしやすさや面談の進め方に関する改善を望む声も見られた。主な意見は以下のとおりである。

- まだよくわからないことの多い１年次に、履修計画や大学生活について相談できる機会があり、相談先となる教員が決まっていることで安心感が得られる。
- 定期面談は有意義である一方、希望者には回数を増やしてもよいのではないか。
- 定期面談以外では相談のハードルを感じる学生もおり、予約フォームなど気軽に面談を申し込める仕組みがあるとよい。
- 学生が事前に相談内容を伝えられる仕組みがあれば、面談がより有意義になるのではないか。
- 人間総合学部にも文学部同様にキャリア･アドヴァイザー制度があるべきだと感じる。
- アドヴァイザー以外にも相談できる教員が分かる体制になっているとよい。
- 教員の個人研究室での面談において、煙草の匂いや、男性教員の場合は、学生が密室での面談を負担に感じる可能性もあるので、必要に応じて面談の環境に配慮してもらいたい。

＜オブザーバーより＞

意見交換に入る前に、発表予定者を決め、メモは全員に取ってもらった。最初は司会も立てたが、大学として発言の射程や意図をもう少し確認したく感じたこと、発言機会がやや偏りがちであったことから、途中からファシリテーターが議論をリードした。全員が積極的に議論に参加し、意見を箇条書き的に重ねるだけでなく、互いの意見を掘り下げていく姿勢が見られたことから、非常に有意義な機会となった。課題があるとすれば、児文３名、発達１名とやや学科に偏りがあり、とくに文学部の学生の意見が聞けなかったことだろう。担当教員の自戒を込めて、なるべくすべての学科から万遍なく参加者を集める重要性を感じた。

グループ B「授業でパソコンやスマホを使うことについて」

学生5 名（国 1 年 3 名、英 3 年 1 名、交換留学生 1 名)、オブザーバー：常盤（国文）

授業中の PC・スマートフォン利用については、メモや情報検索における利便性を評価する意見がある一方、集中力の低下や周囲への影響を懸念する声も多く挙げられた。また、今後利用を進める場合には、情報教育や学内設備の充実が必要との意見が見られた。主な意見は以下のとおりである。

（1）現状の使用実態について

- メモを取る場合は、PC のほうが効率よくできる。
- 母校（韓国）では全員がスマホや PC、タブレットを使用するが、自身は紙の使用を好む(交換留学生より)。
- スマホは私的利用との区別がつきにくく、通知や SNS などによって授業への集中が妨げられる。
- デバイスの操作や不具合への対応に気を取られ授業進行に遅れることがある。

（2）将来使うことになったらどのような対応が必要か

- 現状、学内の情報教育のレベルが 2 つに分かれているが、自分は 2 つの中間ぐらいのレベルであるため、情報教育のレベルを細分化して、本人にとって必要な情報を学べる環境が必要。
- 電子デバイスを使うクラスと使わないクラスを明示して分けて欲しい。
- 授業中に授業外の利用をする人が周囲の学生にも悪影響を及ぼしている。
- 今後利用を進める場合には、学生の習熟度に応じた情報教育の充実や、利用方針の明確化、Wi-Fi 環境や電源設備の整備が必要である。

＜オブザーバーより＞

話し合いは、現状の共有に始まり、その後、ＰＣやスマホの活用状況に個人差が大きいということをどのように解決していくのかという点と、私的利用・授業利用の境界線にどのように対処していくのかという点に意見が集まった。(2)で記したような、今後に資する具体的な提案にもつながった。

広く意見を求めたいと考えて「授業でパソコンやスマホを使うことについて」というテーマを設定したが、学習効果に注目するのか、不正利用の是正に注目するのか、大学側の取り組みについて注目するのかなど、さまざまな方向からの議論が可能であったため、議論を深める時間が不足していたようにも思われた。今後、限られた時間の制約の中で話し合いを進めるための工夫が課題である。

今回の議論が、今後の学内のインフラの整備や、学内での取り組み基準の整備、また、これにつながる、生成 AI の利用に関する基準作成の議論などへ発展していくことが期待される。

グループ C「大学のイベントについて」

学生 4 名（英 1 年 1 名、英 2 年 1 名、児 3 年 2 名)、オブザーバー：土井（英文）

大学のイベントについては、学生同士で具体的なイベントを挙げる中で、「知らなかったイベントが多かった」「知っていれば参加したかった」といった声が多く聞かれた。また、白百合祭の活性化やイベント情報の発信方法の改善を求める意見も挙げられた。主な意見は以下のとおりである。

- 白百合祭についての意見
  ・規模が小さい。
  ・運営体制、ゲスト選定の方法が学生に分かりにくい。
  ・声優さんを招いた企画がよかった。ゲストは学生アンケートや投票で選びたい。
  ・（参加経験者から）提出書類やミーティングなどの準備で時間を取られるため、もっと気軽に参加できるようになるとよい。
- 白百合祭や図書館イベント、学科主催イベントなど、多様な企画が実施されている一方で、その存在が十分に知られていないと感じる。
- 他学科の学生とも交流できるよう、学科を問わず参加できるイベントが増えるとよい。
- イベント情報が他のメールに埋もれてしまうため、全学生向けの Google Classroom の活用や、メール本文による分かりやすい情報発信を行ってほしい。

＜オブザーバーより＞

・ 当日複数の欠席者がいたため、急きょ他のグループから移動して加わってくれた学生さんがおられました。しかし、急なテーマ変更で戸惑いがあるのではないかとのこちらの気がかりは全くの杞憂に終わり、活発な意見交換が行われたことに深く感謝しています。
・ 参加メンバーの所属は偶然にも英語英文と児童文化の 2 学科に分かれていました。理想的には全学科からの参加が望ましいですが、今回文学部・人間総合学部両方の学生さんの声が聴けたことは大いに意義深かったと思います。
・ 参加された皆さんの意見から、小規模大学ならではの本学の強みを生かして、学内の交流をもっと深めたいという強い希望を感じました。そのためにまず学内での様々なイベントについて確実に情報が伝わるようなシステム構築の工夫、また一堂に会して意見交換・聴取をする機会の工夫、さらに学外にもイベント広報を通じて大学の魅力をより広く発信していく方法の工夫など、様々な具体的な提案が出された実り多きディスカッションとなりました。
・ 今回出された要望や提案をどのように反映し、学生の皆さんにより充実した学生生活を送っていただけるようにできるか、これから考えていきたいと思います。

グループ D「キャンパス内の魅力について」

学生５名（児１年、国２年、フ２年、英２年、国３年)、オブザーバー：塚本(教務課)

キャンパス内の魅力については、学生生活を支える充実した施設や自然豊かな環境に加え、学生一人ひとりに寄り添う環境が本学の大きな魅力として挙げられた。一方で、施設・設備面を中心に改善を望む意見も見られた。主な意見は以下のとおりである。

- 食堂やカフェのメニューが美味しく充実しており、栄養バランスの取れた食事が提供されている。
- チャペルの厳かな雰囲気が一番の魅力。クリスマスツリー点灯式など季節に応じたイベントがあるのもよい。
- トイレをはじめとする学内設備が清潔に保たれている。建物間を雨に濡れずに移動できる。
- 緑豊かなキャンパスや紅葉など四季折々の景観を楽しめる。
- 守衛による日常的な挨拶やけがをした際に適切な手当てを受けられたことなど、大学全体で学生を温かく見守る風土がある。
- さまざまな学生支援サービスが充実している点が小規模大学ならではの強み。
- コイノニアルームでのサークル活動やピアサポート団体などにおいて学科や学年を超えた交流の機会がある。図書館など居心地が良く落ち着いて過ごせる環境もあり、様々な場所に自分に合った居場所を見つけやすい。
- バリアフリー化の促進や教室設備の改善を希望する。
- 軽食販売の充実、カフェテリアや購買の営業時間の延長を希望する。
- 白百合の魅力をより多くの人に知ってもらいたいので、学園祭にもっといろいろな人が来て盛り上がってほしい。

＜オブザーバーより＞

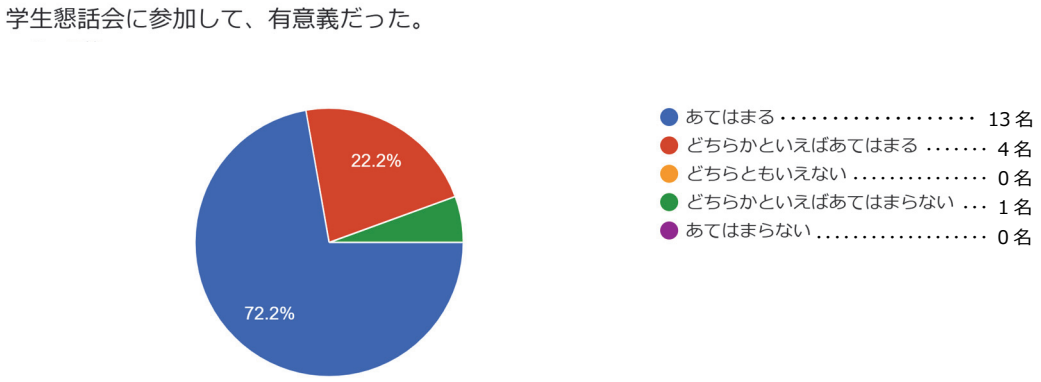
本学の魅力として、学生同士のつながりや、人同士のつながりによって、居場所がある、見守ってもらえているというような意見が多かったのが参考になりました。

懇話会を終えて

Ⅰ．アンケート結果

懇話会終了後、参加者 18 名を対象に事後アンケートを実施し、全員から回答を得た。

まず、「学生懇話会に参加して有意義だったか」という設問については、「あてはまる」が 13 名、「どちらかといえばあてはまる」が 4 名であり、18 名中 17 名が肯定的に回答した。多くの学生が本懇話会を有意義な機会として受け止めていたことがうかがえる。



有意義だった理由としては、「普段関わる機会の少ない他学科や他学年の学生、教員と意見交換ができた」「さまざまな立場や視点に触れることができた」「日頃話し合う機会の少ないテーマについて自由に意見交換ができた」などが挙げられた。また、気軽な雰囲気の中で意見交換ができた点を評価する声も見られた。一方で、「思ったより学生の態度が前向きではなかった」との意見もあり、参加意識の向上については今後の課題として検討したい。

話し合うテーマに対しては、参加者それぞれが事前に一定の問題意識や考えを持って参加していたことがあらためて確認できた。

また、懇話会を通じて、自分とは異なる立場や考え方に触れることで、気づきや発見を得たという回答が多数寄せられた。特に、学科や学年を越えた交流の機会を高く評価する意見が目立ち、「他の学生も同様の考えを持っていることが分かった」「もっと長い時間話し合いたかった」「自分の考えを整理する機会になった」などの感想が寄せられた。これらの回答から、本懇話会が学生同士の相互理解や新たな気づきを促す場となったことがうかがえる。

今後取り上げてほしいテーマとしては、おすすめの授業やグループワーク、食堂・カフェテリア・売店などの学生生活に身近な事柄のほか、共学化、宗教科目、各種教育プログラム、学内設備、カトリック大学以外の大学との交流など、多様な提案が寄せられた。これらの意見については、今後の学生懇話会の企画・運営を検討する際の参考としたい。

Ⅱ．大学からのメッセージ

学生懇話会で寄せられたさまざまな意見や要望に対して、学内から寄せられたメッセージを紹介します。

教務委員長　今井福司先生

2026 年度の学生懇話会の報告書を拝読いたしました。以下、教務委員長としてグループ A「アドヴァイザー制度について」、グループ B「授業でパソコンやスマホを使うことについて」の箇所についてコメントいたします。

「アドヴァイザー制度について」

アドヴァイザー制度が評価されていることは、大変好ましいことと思います。ただ面談の機会が少ないと感じたり、アドヴァイザー面談のフォームがあった方がよい、アドヴァイザー以外の相談できる教員が分かっているとよいといった点など改善すべき点があることもわかり、大変参考になりました。特に、「男性教員の場合は、学生が密室での面談を負担に感じる可能性もあるので、必要に応じて面談の環境に配慮してもらいたい」という指摘は大変重要だと思いますので、教務委員会でも話題にし、問題を共有できるよう手配したいと思います。

アドヴァイザー制度は、白百合女子大学が目指す少人数で細やかな教育を実現するための重要な手段の 1 つです。今後とも改善点があれば随時解決できるよう体制を整えてまいりたいと思います。

「授業でパソコンやスマホを使うことについて」

現在、大学としてどの程度授業でパソコンやスマホなどの情報端末を活用するかについては、それぞれの先生に委ねているところが多いというのが現状です。「将来使うことになったらどのような対応が必要か」については、大変重要な指摘が多く参考になりました。

また、Wi-Fi や電源コンセントなどの環境整備については、大学全体の情報環境整備と関わってくるため、教務委員会単体で解決できる内容ではありませんが、教員の間でも改善の必要があることは認識されています。今後、機会を見て働きかけられればと思います。

なお「電子デバイスを使うクラスと使わないクラスを明示して分けて欲しい」というご要望は理解できるご要望ですが、今後の大学教育の方向性によっては、どのクラスでも電子デバイスを使うことが必要になる場合もあります。また学生さんによっては、音が聞き取りにくいなどの状況から、情報端末を使わないクラスであっても、情報端末を使うことが授業参加に必須である場合もあります。そのため、単に明示して分けて対応してよいのかについて、もう少し検討が必要と考えています。

情報端末については、生成 AI の活用をはじめとして、教務委員会でも関連する話題は多く挙がっています。こうした教務委員会の議論は、学生の皆さんに直接お伝えすることができ

ないものもあるのですが、懇話会で話題に挙げていただいたことを踏まえて、教員だけでなく学生の皆さんにもお知らせできる内容があるかどうか、今後模索しながら議論を進めていきたいと思います。

この度は貴重な機会を頂戴し、感謝申し上げます。白百合女子大学の教育がよりよいものになるよう、教務委員長として尽力してまいります。

学生･就職委員長　椎橋げんき先生

今回の懇話会では、大学イベントやキャンパスの魅力について、学生ならではの率直な意見を聞くことができました。

特に印象的だったのは、「イベントを増やしてほしい」という声よりも、「実施されているイベントを十分に知らない」「参加したくても情報にたどり着きにくい」といった、情報発信や情報共有に関する意見が多く見られた点です。大学として様々な取組を実施している一方で、その魅力や機会が学生に十分届いていない可能性が示唆されたように思います。
また、他学科との交流や学園祭への参加など、学生同士のつながりを求める声も多く挙げられていました。これは、学生が大学生活を学びだけでなく、人とのつながりを通してより充実したものにしたいと考えていることの表れであると感じます。

一方で、キャンパスの魅力としては、「居場所がある」「学生を見守ってもらえている」「安心して過ごせる」といった、小規模大学ならではの特徴が多く挙げられていました。施設面だけでなく、人との関わりや支援体制そのものが、本学の大きな魅力として学生に受け止められていることを改めて確認することができました。

今回の懇話会では、具体的な改善案も数多く示されましたが、その背景には、「大学での活動をもっと知りたい」「参加したい」「学科を越えた交流を深めたい」という学生の思いが共通してあるように感じます。

学生・就職委員会としても、こうした学生の声を関係部署と共有しながら、学生が大学生活をより主体的に楽しみ、多様な活動に参加しやすい環境づくりについて検討していきたいと思います。

教学担当副学長　善本孝先生

今回の学生懇話会では、学生の皆さんから、日頃の大学生活の中で感じていることや、教育・学習環境に対する要望、さらには本学の良さについて、率直で具体的な意見を数多く聞くことができました。大学で学ぶ学生自身の視点から語られた一つひとつの意見は、私たち教職員が普段の教育活動だけでは気づきにくい課題や可能性を考えるうえで、大変貴重なものであったと受け止めています。

懇話会では、アドヴァイザー制度や授業におけるパソコン・スマートフォン等の情報端末の活用、Wi-Fi や電源などの学習環境、大学イベントの周知や情報発信、学科を越えた学生

同士の交流など、幅広いテーマについて意見が寄せられました。その中には、比較的早く対応を検討できるものがある一方、大学全体の教育方針や施設・情報環境とも関係し、中長期的な検討が必要なものもあります。今回寄せられた意見を単に「要望」として受け止めるだけでなく、その背景にある学生の皆さんの思いやニーズを丁寧に考えながら、今後の教育内容や学習環境、学生支援の改善に役立てていきたいと思います。

また、「居場所がある」「見守ってもらえている」「安心して過ごせる」といった、本学の小規模大学ならではの特徴を評価する声が聞かれたことも重要でした。こうした本学の良さを大切にしながら、学生がより主体的に学び、さまざまな活動や人とのつながりを通して充実した大学生活を送ることのできる環境を、学生の皆さんとともにつくっていくことが大切だと考えています。

今回の懇話会で率直に意見を述べ、大学をより良くするための多くの提案をしてくださった学生の皆さんに、心より感謝いたします。また、各グループで学生の声を丁寧に引き出し、活発な意見交換を支えてくださったファシリテーターの先生方にも、厚く御礼申し上げます。今回の懇話会を一つの機会として、これからも学生と教職員が対話を重ねながら、よりよい教育・学習環境づくりを進めていきたいと思います。